# モロッコレポート: 第二回モロッコ-日本シンポジウム (MJS2015)

## 鈴木 義和 a,b

<sup>a</sup> 筑波大学数理物質系物質工学域, <sup>b</sup> 筑波大学北アフリカ研究センター suzuki@ims.tsukuba.ac.jp

### 1. はじめに

2012 年のアルジェリアレポート、2013 年のチュニジアレポートに続く3回目となる今回は、モロッコレポートをお伝えする¹。モロッコ・ハッサン二世農獣医大学²と筑波大学北アフリカ研究センターが共催する第二回モロッコ・日本シンポジウム(MJS2015)に参加する機会を得た。もともとは農学・バイオ分野での連携からこのシンポジウムがスタートしたと聞いているが、第二回では環境・エネルギー分野も加わり、異分野融合への機運が高まっている様子が感じられる。

中東情勢が厳しさを増す中、比較的安全なモロッコといえども細心の注意を払っての参加となった。筑波大学からは13名が参加することとなり、できるだけ行程を揃えての移動を心掛けた。

### 2. 首都・ラバトへ

モロッコの首都、ラバトは行政の中心であり、商業や観光の中心であるカサブランカとは少し離れた位置にある。パリからはラバトへの直行便があるため、こちらを利用することとなった。2月28日(土)夜10時前に羽田空港でチェックインを済ませ、日付変わって3月1日(日)0:20のエールフランス便で経由地のパリ・シャルル・ド・ゴール空港へと向かう(Fig. 1)。パリは冬時間で日本との時差は8時間。朝5時頃にはパリに到着し、約5時間の乗り継ぎ待ちでRabat行きに乗り継ぐことができた。ラバトへのフライト時間は約3時間だが、パリとラバトは1時間の時差(日本とは9時間の時差)があるため、さらに時計を1時間戻して現地時間の12時半ごろにラバト・サレ国際空港に到着した(Fig. 2)。こぢんまりとした綺麗な空港で物々しい警備もなく、平和な感じである。



**Fig. 1** 羽田空港国際ターミナルから出発。パリ CDG 空港で約 5 時間の乗り継ぎ待ちの後、いざ Rabat へ。

到着日は日曜日ということもあり、空港到着ロビーにある3つの両替カウンターのうち、1つ(Morocco Poste)は休みだった。残り2つのうち1つは日本円両替ができないとのことで、列を作って唯一両替可能の窓口に並ぶ。再両替にはレシートが必要と聞いていたので、面倒がる係員さんを相手に、きっちりとレシートをもらうこととした。今回の両替レートは、1ディルハム=約12.7円であった。

<sup>1</sup> 筆者は、第2回のチュニジアレポートの後、「北アフリカ研究センター」 の兼担教員 (=学内の併任) に任命された。

<sup>&</sup>lt;sup>2</sup> Institut Agronomique Vétérinaire Hassan II Rabat (IAV)



Fig. 2 ラバト・サレ国際空港。ラバトと隣接するサレ市内にある。ラバト市中心部へは車で15分程度。

今回は団体での参加ということもあり、事前に手配してあったレンタカー(ミニバス)でラバト市内の Oumlil ホテルへ向かう (Fig. 3)。両替に少し手間取ったこともあり、空港を出たのが13:50頃、ホテル到着は14:10頃となった。 Oumlil ホテルは現地ランクの4ツ星で比較的高級な部類に入るが、設備の老朽化が目立ち、実質3ツ星といったところである<sup>3</sup>。結構な値段であるものの<sup>4</sup>、部屋にはミネラルウォーターや石鹸などは一切置かれておらず、最低限の買い出しが必要となった。

16:00 にミニバスを出してもらえることになり、近所のショッピングモールへと向かう。車窓から見えるモロッコの街並みは、王宮付近ということもあり、非常に美しく整備されている(Fig. 4)。5分程で Marjane に到着 (Fig. 5)。



**Fig. 3** 今回利用した Oumlil ホテル。空港から車で約 20 分。



**Fig. 4** 車窓から見える、ラバト考古学博物館。モロッコ王宮のすぐ近く。白の装飾が美しい。



**Fig. 5** M のマークのショッピングセンター。やや小ぶりのカルフールといった感じ。もちろんお酒は売っていない。



Fig. 6 モロッコ到着日の夕刻。ラバトの街にて。移動に 24 時間以上かかった後の割には、結構元気な筆者。

ショッピングセンターで滞在に必要なものを買い込み (Figs.5-6)、ホテルへと戻る。長旅の疲れもあり、夕食はホテル近くのレストランで簡単に済ませることとなった。

 $<sup>^3</sup>$ 市内中心部からは徒歩で  $^{20}$  分程度の少し外れた場所にあり、各国の大使館などが多いエリアにある。大使館街だけあって、治安は申し分ない(はずである)。

<sup>4</sup> 団体レートで、1 泊あたり約720 ディルハム。日本円に直すと約9000円と、モロッコの物価を考えると首都だけあって結構高い。安全を確保するにはある程度の費用は必要である。

### 3. 学会初日 (3月2日)

13:45 に学会会場の Institut Agronomique Vétérinaire Hassan II Rabat<sup>5</sup> (IAV, モロッコ・ハッサン二世農獣医大学) に到着 (**Fig. 7**)。ホテルからは車で 15 分程の場所である。良く整備されたキャンパスの緑が目に優しい。約 1 時間後、VIP の方々をお出迎えする。







Fig. 7 モロッコ・ハッサン二世農獣医大学。農学系だけあって、キャンパスの緑が美しい。まずは、参加メンバー(の一部)で横断幕を背に記念撮影。

今回、モロッコ側からは Mohammed Sadiki 農水長官、日本側からは黒川恒男・駐モロッコ日本国特命全権大使、庄司光一 JICA モロッコ事務所長にご参加いただくことができた(Figs. 8-9) $^6$ 。

いよいよ学会スタート。開会式が行われ、Saïd Ouaattar 学長、Mohammed Sadiki 長官、黒川大使から MJS2015 開 会への祝辞が述べられた (**Fig. 10**)。



Fig. 8 (左より) Saïd Ouaattar モロッコ・ハッサン二世農 獣医大学長、礒田博子 北アフリカ研究センター長、黒川 恒男大使、中嶋光敏 前北アフリカ研究センター長



Fig. 9 (左より) 礒田博子センター長、Saïd Ouaattar 学長、 Mohammed Sadiki 農水長官、黒川恒男大使、庄司光一 JICA モロッコ事務所長

続いて、庄司 JICA モロッコ事務所長からは、JST/ JICA の共管のプロジェクトである SATREPS (地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム<sup>7</sup>) の紹介が行われた。今回、モロッコ側から最も熱い関心が寄せられた講演といえるかもしれない (**Fig. 11**)。

<sup>5</sup> http://www.iav.ac.ma/

http://www.ma.emb-japan.go.jp/japonais/taishikan.htm

<sup>7</sup> http://www.jst.go.jp/global/



Fig. 10(左より) Mohammed Sadiki 農水長官、黒川恒男大使

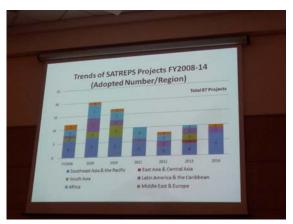


Fig. 11 SATREPS プロジェクトの紹介

15:30 を少し回ったあたりでコーヒーブレイクが入る。 講演会場の外にコーヒー会場が設けられ、明るい陽射しの 中での休憩タイムとなった(Fig. 12)。いろいろな学会に 参加する筆者であるが、屋外でのブレイクは結構珍しい。 お菓子を頬張り、リラックスすることができた(Fig. 13)。 モロッコのオレンジ生ジュースは絶品。



Fig. 12 屋外でのコーヒーブレーク。これはなかなかいい。





Fig. 13 コーヒーブレイクででたお菓子。(上段) フランス風のクッキーが多いが「くの字」型のものはモロッコの銘菓らしい。(下段) 緑のマカロンが特に美味。

16:00。マカロンを惜しみつつ再び講演会場へ。ここからが基調講演である。まず、Bouchta SAIDI 教授からは、「Emerging risks related to Food Technology」と題して食の安全に関する講演が行われた(Fig. 14)。続いて、礒田博子センター長からは SATREPS プロジェクトの研究報告が行われた(Fig. 15)。



Fig. 14 Bouchta SAIDI 教授の講演





Fig. 15 礒田博子センター長の講演と質疑応答

# 4. Welcome dinner (3月2日)

17 時半ごろに初日の講演会は終了となり、いったんホテルに荷物を置いたうえで Welcome dinner に参加することとなった。今回、IAV のご厚意でメディナ(旧市街)地区のレストランにご招待いただいた。メディナまではミニバスでの移動で、19:45 頃にメディナに到着。塁壁のライトアップが幻想的である(Fig. 16)。



Fig. 16 メディナを囲む塁壁とブーレグレグ川

伝統的なモロッコ料理とモロッコ音楽を堪能することができた (Fig. 17)。









Fig. 17 案内人に連れられて迷路のような街を進む。Le Ziryab というモロッコ伝統料理レストランへ。内装の建築様式は一見の価値あり。

### 5. 学会2日目 (3月3日)

学会 2 日目。この日は朝から講演スケジュールがびっしりである。一般講演の合間には、ポスターセッションが設けられ、IAV の博士課程学生を中心に熱心な研究発表が行われた (Figs. 18-19)。



**Fig. 18** ポスターセッションの模様



Fig. 19 一般講演の模様。バイオ・食品セッションでは、 モロッコ産 virgin olive oil の品質についての講演などが行 われた。

14 時近くまでセッションが続き、学内の食堂へ移動。 農獣医大学らしく、厩舎脇を抜けて広い学内を歩く。大皿 を取り分けて食べるのがモロッコ流とのこと。食のセッション後でお昼もかなり回っていたので、空腹を満たすべく 皆で子羊を平らげる(Fig. 20)。ランチの直後には筆者の





Fig. 20 彩りが美しいモロッコサラダとガッツリ焼かれた子羊(かなり美味)。さすが遊牧民をルーツにもつお国柄。



Fig. 21 環境・エネルギーセッションで多孔質セラミック スフィルターの研究発表をする筆者

発表である (Fig. 21)。各家庭レベルでの再生利用を目指したセラミックス浄水フィルター向け多孔質材料の紹介を行った。今回の参加者の多くは食科学関連の研究者であったが、食品分野でも微粒子分離の需要は多いらしく、異分野間での有益なディスカッションにつながった。ほかにも筑波大学からは藻類バイオマスや高効率太陽電池など、多くの研究発表が行われた (Fig. 22)。

Boryococcus culturo.





Fig. 22 藻類バイオマスからの新展開。化粧品分野にも応用可能な新素材(筑波大学生命環境系・出村幹英先生)

2日間のシンポジウムの最後には、閉会式に先だって優秀ポスター発表者2名への表彰が行われた(Fig. 23)。

閉会式。本会議オーガナイザの Mohamed Zahar 教授と中嶋光敏教授からのスピーチがあり、本会議トピックスの Innovation based on Bio-Environment-Energy Sciences について、中嶋教授から熱いメッセージが贈られた (Fig. 24)。





Fig. 23 優秀ポスター発表者 2 名への表彰



Fig. 24 Innovation の重要性を熱く語る中嶋先生

### 6. ラバトを歩く

本稿の最後に、モロッコの首都・ラバトについて少し紹介したい。最初に述べた中東・アフリカ情勢の厳しさも考慮に入れ、観光的要素をできるだけ抑えた今回のモロッコ渡航ではあったが、遠くアフリカの地で会議出席だけというのはあまりにも残念である。モロッコ到着2日目(3月2日)の午前中と帰国日(3月4日)の午前中、どちらも2時間程度の空き時間があったので、グループで市街地を少しだけ散歩することにした。







Fig. 25 ムハンマド5世通りに面した鉄道駅、国会議事堂、中央郵便・電話局。美しい建築様式に目を奪われる。

実際のところ、王都ラバトの官庁街である宿泊ホテル周辺の治安は非常に良く、王宮から北に伸びる目抜き通り・ムハンマド5世通りの美しい街並みは、フランス保護国時代の面影を彷彿とさせる(Fig. 25)。旧市街地のメディナでは、短い時間ながらも、地元の人々の生き生きとした生活を垣間見ることができた(Fig. 26)。

本稿をきっかけに、北アフリカ地域に関心を持っていた だける方々が少しでも増えてくれれば幸いである。







Fig. 26 メディナ (旧市街) の街並み

#### 謝辞

今回の渡航に際し、北アフリカ研究センターの多くの方々にお世話になりました。記してお礼申し上げます。

### 補足・免責事項

本稿で使用した写真は(自分の発表を除き)すべて私が撮影したものです。大急ぎでの執筆のため、多少誤りがあるかもしれません。参考程度にお考えください。 Copyright (c) Yoshikazu Suzuki, 2015